

理解を深めて『きずな』の輪を広げよう

～ふれあいフェスティバル2008のぼりべつ～

9月14日(日)、しんた21で『ふれあいフェスティバル2008のぼりべつ』（登別市社会福祉協議会主催）が開かれました。

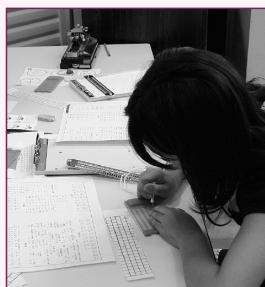
この催しは、すべての市民が地域社会の一員として、安心して暮らせる『ふれあいと支えあい、心豊かな福祉社会』の実現を目指し、市内の福祉団体や企業の協力を得て、毎年行われているものです。

この日は、ステージで湯乃華太鼓による和太鼓演奏や85歳以上でまだまだ地域活動に貢献している方を表彰する『高齢者いきいきライフ表彰』、登別手話の会による手話の歌やクイズなどが行われたほか、各部屋では手話や点字など11種類のボランティアを体験できる『体験の広場』が行われ、参加者は体験を通してボランティアに対する理解を深めていました。

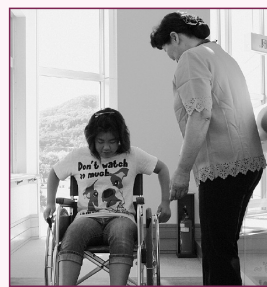
そのほか、ふれあい子育てサロンや各ボランティアグループによる屋台が開かれ、秋晴れの中、参加者は地域のきずなを広げていました。



▲登別手話の会による手話の歌



▲点字体験



▲車いす体験

がんばった夏休みの成果を披露

～第9回あさがお展～



8月23日(土)から25日(月)まで、クリンクルセンターで『第9回あさがお展』（国際ソロプチミスト登別主催）が開催されました。

この催しは、市内の小学1年生が夏休みに自宅で育てたあさがおを、各小学校から優秀作10点を展覧してもらい、展示、審査を行い表彰するものです。

審査は7人の審査員で行い、『花がよく咲き、葉が整っているか』や『全体のバランスが取れているか』など4項目を各5点満点で審査。金賞は幌別小学校、銀賞は鶯別小学校、銅賞は若草小学校が受賞。幌別小学校は2年連続での金賞受賞で、審査員からは「葉は元気でつぼみもたくさんあり、花の色もいろいろな色があって、状態が良く育っていた」と感想を述べていました。

迅速な救助活動を目指して

～全国消防救助技術大会入賞～

8月29日(金)、北九州市で『第37回全国消防救助技術大会』が行われ、登別市消防チームが入賞を果たしました。

この大会は、日ごろの救助活動訓練の安全管理と早さを競うものです。今回全国大会に出場した『ほふく救出』は、1人が約9^{キロ}の空気呼吸器を装着して、長さ8^{メートル}の煙道内を探索し、要救助者を屋外に救出した後、もう1人の隊員と協力して安全な地点まで搬送する訓練。7月24日に行われた『全道消防救助技術訓練指導会』で3位となり、全国大会への出場となりました。

登別消防チームは、佐々木和幸さん、塚田未来大さん、砂田勝徳さんの隊員3人と指導者の千葉成人さん。千葉さんは、「安全管理に関する減点がなかったのは大きな成果。ただ全国大会では、練習よりもタイムが落ちてしまった。来年はさらに上位を目指したい」と意気込みを語ってくれました。

